



R.I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

週報 第2085号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL<055>976-6351 FAX976-6352  
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島  
TEL<055>984-0120

会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2148回例会

2017.2.2晴

司会

吉川喜仁君

国歌齐唱

四つのテスト

ロータリーソング

「奉仕の理想」  
指揮 柴崎恵子君

かりやすい説明で、「ロータリーの樹」という絵が一番説明しやすいようでした。

また、「ロータリーの友」1月号には、「職業奉仕」は、ロータリーの根幹か?という別の意見も掲載されています。参考までにご一読ください。

会長挨拶

会長 栗原達治君

改めまして、皆さま、こんにちは。ゲストの赤池さん、良くいらっしゃいました。ゆっくりおくつろぎください。

従来「ロータリーの綱領」となっていたものが、「ロータリーの目的」に変更され、日本語訳も変わってきたように、10月の「職業奉仕月間」も、2015-16年度より、1月に変更されました。ということで、後期に入ってからの、1月29日の日曜日、川名職業奉仕委員長らとともに、「職業奉仕セミナー」に、出席してまいりました。なんと参加者は403名に上りました。RI 2740地区(佐賀県・長崎県)のDGEであります、駒井英基先生(歯科医師)の、「職業奉仕の源流を訪ねて」という講演を聞かせていただきました。先生は、「私の考えるロータリー感」ということで

1.ロータリーとは自らの職業を通して、地域社会に奉仕する場である。

2.クラブの仲間との交流(親睦)を通して、自分の経験からだけでは知りえない知識や知恵を学び、人生を豊かにする場である。

3.いわゆる人間修業の場である。

4.結果として、より幅広い人道的な奉仕につながるものだと信ずる。

というようなお話をされました。職業奉仕については、分かっているようで、人には説明しにくい「奉仕」ですが、非常にわ

“こんなちは、ようこそ”

ゲスト 赤池克斗さん

(矢岸君・藤江君・森崎君・川名君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メープル	修出席率
前々回	41/44	93.18%	42/44	97.73%
今回	41/44	93.18%	会員総数	46名

欠席者 畠田君、藤江君、米山君

幹事報告

副幹事 宇田川茂君

①1月29日(日)静岡グランシップで職業奉仕セミナーに亥角G補佐・会長幹事・川名委員長・鈴木郁夫国際奉仕委員長が出席されました。

②IM全員登録しました。皆出席でお願いします。

③2月9日(木)夜間例会です。また、理事会も開催します。

2016～2017年度  
国際ロータリー会長  
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー



奥様誕生日 大石君  
結婚記念日 栗原君、三田君

## スマイルボックス

- ◆栗原君、折角の日曜日、川名職業奉仕委員長を始め、「職業奉仕セミナー」に参加された皆様、お疲れ様でした。
- ◆関本(文)君、伊丹さん、いつもながらの心くばりありがとうございます。
- ◆前田(博)君、ヘルニアになってしましました。しばらく座るのが大変ですので早退ばかりすると思います。ご迷惑をお掛けいたします。

## ROTARYNEWS

学校に行くだけでは識字率は高まらない。授業改革に乗り出したロータリーのアプローチとは。

世界で読み書きのできない子どもの数  
1.22億人

米国の生活保護受給者のうち、読み書きのできない人の割合 75%

キャロライン・ジョンソンさん（米国メイン州、ヤーマウス・ロータリークラブ所属）は、グアテマラ中部の山岳部で出会った小学1年の担任教師から聞いた言葉にショックを受けました。この教師は、「グアテマラ識字率向上プロジェクト」に参加する以前、生徒たちが読み方を覚えるのは「無理だと思っていた」と言うのです。「その教師はこう言いました。“1日授業をしなくて済むし、本がもらえ、おいしいランチも出ると聞いたので喜んで研修に参加したけど、心の中ではまったく無駄な試みだと思っていた”、と」。このプロジェクトでは、この教師をはじめとする100人以上が、8ヶ月にわたり研修を受講。まる暗記や書き取りではなく、子どもの思考力を高める授業のメソッドを学びました。ジョンソンさんはこう続けます。「その教師は、生徒50人中45人が読み方を覚え、2年生に進学できたと興奮気味に語りました。参加した教師の90パーセントが、研修の効果を確信するようになりました。教師になってよかったですとあらためて実感し、今では何かを変えられると信じて教壇に立っています」これまで数十年、識字率向上の取り組みといえば、「就学を妨げる要因をなくす」「教材を提供する」など、子どもたちが学校に通うための支援が中心でした。しかし今、専門家の多くは「それでは不十分」と指摘します。生徒の学力を伸ばすには、まず授業で教える側の力を伸ばす必要があるのです。このグアテマラでのプロジェクトや「ネパール教員研修イノベーション（NTTI）」など、ロータリーのプロジェクトは「教える力」を高めることで、子どもたちの読む力を育てています。教員への支援に力を入れているのはロータリーだけではありません。国連や米国国際開発庁（USAID）も、教師への援助を重視した取り組みを行っています。識字能力の向上は、より良い生活を送るための条件であり、「極度の貧困を削減する」という大きな目標に向けた活動の一環でもあるからです。

世界銀行のリードエコノミスト、クエンティン・ウォドンさんは、専門家として、またキャピトルヒル・ロータリークラブ（ワシントンDC）のメンバーとして、教育プロジェクトを研究してきました。学習の成果を改善したいなら教師を抜いて考えることはできないと、ウォドンさんは力説します。「子どもたちの学習効果を上げるには、教師の存在に幅広く注目すること」とウォドンさん。教師への研修は、世界銀行が定めた8つの主要目標のひとつでもあります（ほかの目標は「教師への期待を明確にする」「優秀な候補者を集める」「教師のスキルを生徒のニーズに合わせる」「教師の基本理念を掲げる」「モニタリングする」「継続的にサポートする」「モチベーションを高める」）。ウォドンさんのクラブは、ネパールのカトマンズ・ロータリークラブと協力して、授業改革に力を入れているNTTIと非政府団体PHASEを支援しています。これまで授業といえば、生徒たちはただ受け身で座っているだけ。しかし、このプロジェクトで授業の主体となるのは生徒たちです。「これまで慣れてきた授業の方法を変えることは簡単ではないが、考え方を変えようという考え方には徐々に浸透しつつある」とウォドンさん。こんなエピソードもあります。以前、暗記法ばかりに頼り、黒板の文字を生徒に書き写させるばかりの教師がいました。しかし、研修に参加した後、この教師は生徒が活発に参加できる授業に切り替えました。例えば、生きものとそうでないものを並べ、その違いを生徒が説明したり、ディスカッションしたりすることもありました。そのような授業の後には、全員が外に出て、学んだことを自然の中で体験する演習もしました。この「自然学習」のとき、ある生徒が近寄ってきて、生きたアリを教師の手の上に乗せ、こう尋ねました。「これは生きものだよね」。教師がうなづくと、生徒はそのアリを押しつぶし、また尋ねました。「まだ生きもの？」。ふいをつかれた教師は、ほかの生徒たちに「みんなはどう思う？」と質問。その後は活発な議論がはじまったそうです。ほかの教師も、生徒参加型の授業の効果を実感したと口をそろえます。「授業のやり方ががらりと変わった。研修でいろいろなメソッドを学ぶことができた」と、中学教師のゴマ・カーダさんは話します。

（週報担当:関本照文）

三島西RCテーマ

親睦を深め ロータリーを楽しもう